



## Contents

- ・【巻頭エッセー】「この音符は何に見えるか？」…金子恵 ●表紙
- ・【Parlando Interview】音楽の授業を通して子どもに笑顔を  
酒井美恵子先生 きき手・小関康幸 ●2～5
- ・館長室へようこそ ㊸…古川 聡 / 雑誌の部屋 ㊷ ●6
- ・【私のおすすめ】…根本晃帆 岡本さやか ●7
- ・Information ●8

# Parlando

ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No.296

## 【巻頭エッセー】「この音符は何に見えるか？」

金子恵

音楽は人をたくさんの感動へと導いてくれる。人は何故、音楽を聴き演奏するのか。

私にとって音楽は“マジック”。毎日“マジック”と共にいるのだからもう面白くてたまらないし止められない、中毒症のようなものです。しかし、面白い面白い、と言って過ごせるはずもなく、はまれればまるほど神秘の世界に引きずり込まれてゆく。そちらの世界は予想以上の苦しみ、ある時は快樂、非日常的な感覚を味わい、多くの謎が生まれる。そんな謎を解き明かしてくれる場所に図書館があります。私の学生時代、まだインターネットのような便利なものはなく、ひたすら図書館に通って楽譜を借りたりレコードを聴いたりしていました。LPレコードは、聴きたい所を何回も何回も針を落とし聴いているうちにそこだけ傷っぽくなって針が飛んでしまうこともありました。絵を見ることも好きで美術の分厚い本を見ては心が癒されていましたし、とても静かで居心地の良い場所でもありました。

最近「命」についての本が読みたくなくて「命」と入れて検索して出会った本があります。『リレートーク 言葉の力 人間の力』と題する、それぞれ違う分野で活躍する4人の著名な方々の対談が綴られている本です。その中に今は左手のピアニストとして活躍している舘野泉さんがいたので、余計に興味を持って読みました。壮絶な人生を送ってきた舘野さんのお話に引き込まれると同時に、対談の相手の松居直さん（福音書書店創業、月刊物語絵本『こどものとも』を創刊）のお話で「言葉というのは目で読むものではない。

耳で聞いて話をするという、オーラル文化、声の文化、それがまず大切です。その次に‘読む’とか‘書く’とかリテラシーというのがくっついてくる」とあり‘言葉’を‘音符’に置き換えたならこれは正に音楽に言える事だ、と共感を覚えました。

私のハンガリー留学時代の恩師ラドシュ先生の言葉が甦ります。モーツァルトの作品でのレッスンのこと、私が弾き始めて8小節したら止められて、こうおっしゃった。「君は何を考えて弾いているのか、僕には全く理解できない。君にはこの音符は何に見えるか？」その時の私には答える力がなく逆に「先生は何に見えるのですか？」と聞くと「自分にはこの音符の一つ一つが大切な命に見える。道を歩いている人たちを見なさい。誰一人として同じ顔をしている人はいないでしょ？皆、違うパーソナリティを持つ顔、命なんだ。不必要な命は一つだってないのだから音符も同じだよ。君は随分音を殺しているね」とラドシュ先生は言った。衝撃の言葉にショックを受け、それから私は1週間ピアノの音を出すことができませんでしたが、音楽をすることの意味を心底知った気がして感極まりない感動に震えました。音符は目で読むものではない。耳で聞いて歌うことがまず大切で、そこに心が動くと息が吹きかかり演奏したくなるのだと思います。どんな音もパーソナリティを持った大切な「命」なのだから。

●かねこ めぐみ 本学准教授(ピアノ)

\*『言葉の力人間の力』舘野泉(ほか)著 佼成出版社 2012  
請求記号●J123-683

## 酒井美恵子 先生

(さかい・みえこ)

国立音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。東京都の公立中学校教諭及び指導主事を経て2005年度より国立音楽大学にて教職科目を担当。著作等として「おすすめ資料」欄に掲載の書籍や映像などがある。教員養成及びねらいの明確な楽しい授業を現場の先生方と一緒に具体的に考えていくことを大切にしている。



## 音楽との出会い

— まず、先生のお子様の頃のお話から伺えればと思います。

**酒井** 武蔵野市に住んでいたことが、音楽に進む一番大きな要因だと思います。2棟で60世帯ぐらいの国鉄アパートに住んでいましたが、そこに国立音大卒のピアノの先生が来てお稽古をしていました。5歳上の姉や近所の小中学生が習っていて、私の家も会場でしたから、小さい時からピアノを聴いて育ちました。私自身も小学校から習い始めました。

武蔵野市で通った小学校では、中学年以上は音楽専科の素晴らしい先生が、最新の音楽の授業をしてくださったり、ソプラノの中村邦子先生をお招きして生の演奏を聴いたりもしました。

また、市には市民に良い音楽を安価に提供する事業があって、安川加寿子先生のピアノやヨセフ・モルナル先生のハープの生演奏を聴いた覚えがあります。

— 中学時代はいかがでしたか？

**酒井** 市立の中学校に進学しましたが、「音楽センター」という市の吹奏楽の取り組みがありました。月に1~2回、水曜日に個人レッスン、土曜日に合奏がありました。私はフルートでしたが、国立音大の学生さんに個人レッスンを受けた記憶があります。合奏指導の先生が市民オケを立ち上げたような先生で、音楽センターに出会ったのも良かったと思います。そういう小・中の先生との出会いで音楽を志しましたので、武蔵野市というのがキーワードだと思います。

— 高校、大学の頃はいかがでしたか？

**酒井** 中学生になり本格的にピアノやソルフェージュを始めて本学の附属に入りました。高校時代、一生懸命頑張って3年生の時、定期演奏会と卒業演奏会に出演しましたが、満足のいく演奏ではなかったと思います。ソロよりも伴奏が好きでした。大学時代は歌、バイオリン、オーボエ、フルート、ホルンなどの伴奏に熱中していました。一緒に合わせて音楽を作っていくのがすごく楽しかったです。伴奏を仕事にしたい気持ちもありましたが、教えることも好きでしたから公立中学校の音楽科教員になり、3校教えました。

## 音楽科の教員から指導主事へ

— それぞれの学校での思い出をお聞かせいただけますか？

**酒井** 最初の学校では、あまり勉強に前向きではない子たちが、冬の合唱コンクールでオフコースの「さよなら」を歌いたいと言ってきました。ポップスの合唱は難しいのですが、意欲があってクラスみんなもやりたいということで、担任の先生と相談して混声3部に編曲して歌いました。後の感想文に「歌えてよかった。歌いながら体育館の窓の外を見たら雪が舞っていて歌詞と重なった。一生忘れないだろう」と書いてくれて、今でも覚えています。

2校目は教育委員会の指導室訪問がありました。事前に出した授業プランを指導主事さんが子細に見てプリントを作り、その中に自分の授業も取り上げられていて「これはこういう価値がある。こういう教育に繋がる良い取り組みだ」と説明されました。自分のやることが何に繋がるかが分かって嬉しく、指導主事になりたいと思いました。そのためには研究歴が必要なので、東京都の教育研究員という制度で1年間、他の区市町村の先生とグループ研究をしました。研究することは授業の質が上がると思いました。

3校目では、コンピュータを使った音楽の授業を研究しました。そして「東京の教育21」で1年間の研究をしたり、筑波の宿泊を伴う教員研修に行かせていただいたりしました。

— その後はどうなさいましたか？

**酒井** 指導主事を5年間しました。指導主事は、学習指導要領に基づいて学校が適正に教育課程を編成して実施していくことを指導・助言する仕事です。幼稚園の保育、小・中学校、特別支援学級の授業をととてもたくさん拝見し、その良さや課題を瞬時にとらえて言語化することを繰り返しましたので、記録の取り方や、指導・助言の仕方が伸びたと思います。それは今、学生の模擬授業を助言する時にも、呼んでいただいた各学校の授業研究の助言や合唱コンクールの講評にも役立っている財産です。

## 専門家のアイデアを子どもたちへ繋ぐ

—— 研究者になられて共著やDVDなどの出版物を制作なさっておいでですね。

**酒井** 共著やDVDは子どもの笑顔に繋がるための授業プラン、現場の先生方の悩みに答える解説書、教員になりたい人のためのガイドブックの3種類に分かれます。

授業プランに関しては2010年出版の『中学音楽が魅力的に変わる！授業プランの新モデル24』が最初で、骨格を作ったり、アイデアを出したりして類書がないものが出来ました。かなり重版したので、企画書を出せるようになりました。

そこで、小学校低学年にはリトミックをと考え、井上恵理先生と一緒に『動いてノッて子どもも熱中！リトミックでつくる楽しい音楽授業』を出し、学校現場の先生からすごく喜ばれました。

実は、この本の最終的な仕上げを研究室でしている時に東日本大震災が起きました。

—— どうなりましたか？

**酒井** 震災発生の翌日から研究室で、ラジオをかけながら仕事をしていると、暗いニュースに混じって、アンパンマンマーチが流れたのです。それを聴いたら子どもたちがパッと明るくなったというのです。音楽を含む芸術が、人が生きるのに大切だと思いました。震災の後に自分に何ができるかと考えたら、子どもたちが楽しいと思う音楽の授業を提供することだと考えました。国立音大には、素晴らしい先生方がたくさんいらっしゃいますから、専門の先生からいっぱいアイデアをいただき、それを学校に繋ぐ役をしたいと思って2011年に一気に企画をして頑張りました。2011年以降、本が続いて出ているのは、そういう原動力があつてのことです。

ただ、頑張り過ぎて、大震災が起きた3月11日から7月まで土日も休まずに仕事をした結果、片方の耳が「低音障害型感音難聴」になりました。回復しましたが気持ちだけあってもダメだと思って、上手に休みながら仕事をするようになりました。

—— お休みはどう過ごされるのですか？

**酒井** 家では猫と一緒にダラダラと。でも「このようにしたら先生たちは取り組みやすいかな」とか「子どもの笑顔はここで出るだろうな」とか「こういう教材があれば授業がやりやすいだろうな」というようなことを考えています。パソコンを使うのは5時間までと決めて研究室でしかやらないので、形にするのは研究室です。

—— 2012年以降に刊行された、授業プランの図書を教えてください。

**酒井** 今村央子先生と一緒に、小学校低学年から中3まで、楽しく音楽を作りましょうというテーマで『楽しくつくるアイデア満載！「音楽づくり」成功の授業プラン』と『表現力アップの仕掛けが満載！「創作」成功の授業プラン』を2012年に出しました。これもとてもうまくいきました。

横井雅子先生と作った『プロの演奏でつくる！「日本・アジアの伝統音楽」授業プラン』は2014年刊行で、そのまま使えと、先生たちからとても好評です。前半部分は横井先生がすごく分かりやすい解

説を書いてくださって、後半はこんな授業の流れでこのプリントを使うと映像と一致して取り組みやすいですよという流れになっています。

『「茶色の小びん」「南京豆売り」ノリノリ体験教室』も同じ年の刊行です。初め中学校用と想定していましたが、栗山和樹先生がむしろ小学校段階で偶数拍を強く感じるような体験をさせたいとおっしゃって、ジャズの先生方の協力を得て素敵な映像ができました。プロのカラオケで児童がセッションできるようになる映像です。また、塩谷哲先生がナビゲーターを担当されて偶数拍を強く感じるためのステップを教えてください、カルロス先生がラテンダンスを教えてくださいたりしています。

## 授業プラン以外の共著

—— 学校の先生方用の本などもありますね。

**酒井** 阪井恵先生と作った『導入・スキマ時間に楽しく学べる！小学校音楽「魔法の5分間」アクティビティ』は重版8回目です。授業の隙間時間に何かやっていないかと、全国に出した1000通の往復はがきから返信のあった約300を分析し、いっぱい良いことがあるから、みんなに伝えようという意図で作りました。

もうひとつは『音楽授業でアクティブ・ラーニング！子ども熱中の鑑賞タイム』です。「アクティブ・ラーニング」をクローズアップしていたので、そのことを受けて、これも阪井先生と一緒に出しました。面白いものができたと思います。

—— 漫画が入っているものもありますね。

**酒井** 『4コマ漫画で楽々ナットク 中学校評価丸わかりガイド』と『4コマ漫画で楽々ナットク 中学生徒指導丸わかりガイド』ですね。それぞれ中学校の先生たちやこれから教員になりたいという人たちが、短い時間で理解できるようにということで漫画を取り入れました。そこでクエスチョンを作って、専門の先生に答えてもらうスタイルです。

『めざせ！ 中学校・高校教員 教員採用試験突破ガイド』にも漫画を入れました。これは、これから教員になりたいという人たちが対象です。

—— 多くの先生方とコラボレーションなさったご感想は？

**酒井** 皆さん、アーティストと研究者なので、「子どもたちにこういうことを伝えたい」と言うと、次から次へアイデアが出てきて、私の役割は例えば126ページに収めるとか、現場の先生たちが使いやすいように取捨選択をしつつ作っていくことです。あたかもソリストと伴奏者みたいな、そんな感じがしました。

—— 特別な反応はありましたか？

**酒井** 東京都以外の教員研修会に呼んでいただいたり、他県の先生が直接訪ねていらして一緒に勉強したり、面識のない先生から「学習指導要領の改訂にあたり、多忙な小学校の先生に分かりやすく、より良い実践の方向性を示唆する本を作るので、音楽科のページを」と執筆依頼されたりしました。とても嬉しかったですね。

## くにおんの教員養成

**酒井** 教員になる学生や卒業生がとても多いですが、教員養成を組織で行なって、それがうまく回っています。また全学生の6割ぐらいが教職課程を履修し、それぞれ専門となる音楽を極めようと頑張っている、その底力があるからこそ受かるのだと思います。学生の人柄がすごく良いので、この人たちを子どもの前に送り出すことが社会貢献になると私は思っています。音楽の力が伸びているのはカリキュラムの良さもありますね。基礎課程を1、2年できちりと学んで、同時に専門をしっかり学ぶという、そこがきちんとあるから教員として良い人たちになっていくのだと思います。

— 先生の授業はどのような内容なのですか。

**酒井** 教職科目で言いますと、2年生、3年生の音楽科教育法を持っています。あとは4年生の教職実践演習というまとめのものです。

2年生のクラスでは、前期にまず考えることをやってもらいます。授業には今日のねらいがあって、自分の目の前の子どもたちを見て、あるクラスではこの方法で、他のクラスでは別な言い回しで、ねらいに向かって工夫をしていく即興的な部分もあります。だから、いろんなことを考えることが大事だと思います。グループで、学習指導案の略案をまず作り、もっと詳細なものを少しずつ作るように「今日は題材名を作れるように」とか「終わりのほうには、適切な目標の作成ができるように」という具合に育てていきます。

後期には、前期で学んだことを生かして学習指導案を作り、模擬授業を行います。模擬授業は30分ぐらいグループで行って「こんなところが良かった」とか「ここはこういう方法にするともっと分かりやすいですね」などと具体的な指導・助言を繰り返していきます。大体30～40人の学習集団なので、学生は自分が作るだけでなく、ほかの6～7の模擬授業を見て、それに対して自分だったらどうしようと考えますので財産が溜まっていくと思います。

また、今も実際の現場の教員の授業を、年間10回ぐらい拝見しているので、現場の先生ではこういう方法もあるよという紹介の仕方ができます。これは続けていきたいと思っています。

## 仲間づくりの重要性

— 教員になりたい学生さんへ助言がありましたら。

**酒井** 教員になりたいとか採用試験を受けたいと思っている人は、一緒に頑張る仲間づくりをお勧めします。仲間がいると、合格しやすい感じがします。すごくたくさん受かった年には、いくつかのグループがそれぞれ切磋琢磨して、グループごといろいろな先生のところに「面談してください」「集団討論の練習をお願いします」「論文を書いたから見てください」と来ていました。

また、同世代が東京都だけではなく、全国あちこちで教員をやっているのもまた価値があることです。私たちも意図的に去年受かった人と繋ぐようにしています。1次だけでも受かった人がいると、「今年受ける後輩がいるから助言してあげて」といって繋がります。そうすると仲間ができて一緒に頑張れるようです。



— こんなに教職に強い国立になったのには何か理由があるのですか？

**酒井** 2007年度に1人、学校教育コース2期生の学生が3年の夏休みに採用試験の勉強をすごく頑張ったんです。

その人に火がついたきっかけはこうでした。2004年に大学が新カリキュラムになり、1期生が3年生になった時にコースが始まりました。学校教育コースの学生から「学校教育コースは、良い先生になる勉強はあるけど、試験に受かるための勉強はなく、残念だ」と言われました。そこでその翌年3年生以上対象の「学校教育専門演習ABC」を作りました。Aは実技対策で弾き歌いや伴奏付けなどに、Bは楽典の復習から音楽史、作・編曲など諸々全部入ったものに取り組み授業で、Cは「日本の音楽と世界の音楽」に特化して深めていくという内容です。そして全国の過去問なども勉強し、音大で習ったことのない問題がたくさん出題されていると分かって、それをきっかけに1人の学生が頑張り、周りも呼応して頑張ったのです。その学生のいた年は学部生だけで20名以上合格しました。

— 学生さんたちへメッセージを。

**酒井** 経験したことは何でも教員として役に立つので、大学時代にいろんなことを学んで、いろんな人と関わって、個性を磨いてほしいです。そして学生時代に、学習ボランティアや部活のコーチなど子どもに接する体験をすることは採用試験にも教員に採用されてからも役立つ経験だと思います。

— 今後についてひとことお願いします。

**酒井** 今回こうした機会をいただき幼少期を思い出して、自分は偶然ピアノに会って音楽に進んだと思っていましたが、結局、小学校の先生や中学校の音楽センターの先生たちが、子どもに良い音楽に出会わせたいという思いを持っていて、自分も周りの人たちも音楽が好きになったりその道に進んだりしたのだと感じました。だから私も、音楽の授業を通して子どもに笑顔をとという思いを持ち続けて、引き続き頑張ろうと改めて思いました。

— ありがとうございます。(了)



# ❄️ ❄️ 酒井先生おすすめの資料 ❄️ ❄️

## 図書

### 『ちいさい言語学者の冒険 子どもに学ぶことばの秘密』

広瀬友紀 岩波科学ライブラリー 2017 ●当館未所蔵 TAC:津田塾大学、武蔵野美術大学所蔵

人が言葉をどのように獲得していくのかに興味をもって読み始めました。小さい子どものエピソードをふんだんに盛り込んであり、楽しく学ぶことができます。小さい頃にご自分が使った面白い言い間違いなどを思い出すかもしれません。

### 『オノマトペの謎 ピカチュウからモフモフまで』

窪園晴夫編著 岩波科学ライブラリー 2017 ●当館未所蔵 TAC:国際基督教大学所蔵

国立国語研究所が主催したフォーラムにおける発表をもとにした本です。さまざまな研究者がオノマトペについて述べていますが、とりわけ子音そのものもつイメージの解説が印象に残りました。これを読むと、歌を歌う時の言葉の発音に一層気を付けるようになるかも!?です。

## CD

### 《魔王》 福井敬(テノール) 横山幸雄(ピアノ)

松本隆日本語訳/シューベルト:歌曲集「美しき水車小屋の娘」avex io

請求記号●XD54289〔ほか〕

松本隆プロデュースのCD「美しき水車小屋の娘」に入っています。《魔王》は昭和30年代から現在まで中学校1年生の音楽の教科書に掲載され続けている作品です。日本中の中学生にこの素晴らしい演奏を聴いてほしいと思っています。



## 酒井先生著作集

国立音楽大学の素晴らしい先生方と共に作った書籍や映像です。

「教育実習の授業のヒントが欲しい」「学校の先生になりたい」という学生の皆さんにおすすめです。

酒井先生より  
ひとこと!

### <小学校音楽>

\*『動いてノッて子どもも熱中!リトミックでつくる楽しい音楽授業』(音楽授業が楽しみになる!小学校学級担任サポートBook;1)井上恵理、酒井美恵子著 明治図書出版 2012  
付属資料: DVD-Video 請求記号●シラバス/井上恵理/17:館内閲覧 2F開架〔ほか〕

\*『「音楽づくり」成功の授業プラン:楽しくつくるアイデア満載!』(音楽授業が楽しみになる!小学校学級担任サポートBook;2)今村央子、酒井美恵子著 明治図書出版 2012  
付属資料: DVD-Video 請求記号●シラバス/酒井美恵子/11:館内閲覧 2F開架〔ほか〕

\*『音楽発表会やリズムダンスを成功させる!「茶色の小びん」「南京豆売り」ノリノリ体験教室』栗山和樹、酒井美恵子制作 2014 請求記号●VE5043

\*『小学校音楽音符&リズムワーク:楽譜がみるみる読める!』(音楽科授業サポートBooks)今村央子、酒井美恵子著 明治図書出版 2015  
請求記号●教職(小)/教科研究/IMA 2F開架

### <中学校音楽>

\*『「創作」成功の授業プラン:表現力アップの仕掛けが満載!』(学びがグーンと深まる!エキスパート発人気の中学音楽;1)今村央子、酒井美恵子著 明治図書出版 2012  
付属資料: DVD-Video 請求記号●シラバス/酒井美恵子/12:館内閲覧 2F開架〔ほか〕

\*『プロの演奏でつくる!「日本・アジアの伝統音楽」授業プラン』(学びがグーンと深まる!エキスパート発人気の中学音楽;2)横井雅子、酒井美恵子著 明治図書出版 2014  
付属資料: DVD-Video 請求記号●シラバス/酒井美恵子/4:館内閲覧 2F開架〔ほか〕

# 館長室 へようこそ 26

## 『業界用語』

図書館長 古川 聡

図書館にいて、館員にしかわからないような言葉が飛び交うことがある。いわゆる業界用語である。館長になって最初の頃、「利用者」という言葉に若干の戸惑いを感じた。これまで教員として相手にしていたのは学生だけであったが、図書館には学外の方も来られるので、すべてをまとめれば利用者になる。「オントキョウ」という言葉にも悩まされた。打ちあわせ中に館員が繰り返し「オントキョウ」と言うのだが、それが音楽図書館協議会を意味する「音図協」であることを理解するのに数か月を要した。わかれば至極当然の表現なのだが。

その業界に入っていないとはいえ、日常生活の中で何かの折りにそのような業界用語を見聞きすることがある。たとえば鉄道業界。車両の横に書かれている「クハ」は運転台のある旅客用車両の区分表示、ホーム先端の小さなディスプレイに表示される「抑止」という文字は「先に進むな」という運転士への運行停止の指令である。では、ホームに流れる『2バン、エンパツ、コロコロ40』という業務放送は何を言っているのだろうか。これは、「2番線に停車中の電車は当初の予定を遅らせて00分40秒に発車しなさい」という乗務員への情報伝達で

あった。わかってくと放送を聞いて思わずニヤツとし、慌ててあせりながら電車で駆け込む乗客を横目に、腕時計の時刻を確認しながらすぐには発車せずにホームに止まっている電車で悠々と乗ることになる。

このような用語や表現は、その業界の中では普通の言葉であり、より短い表現で正確に情報を伝えることができる優れたものといえる。みなさんの周りにはどのような業界用語があるだろうか。「トラ」「ゲネ」などは音楽業界の言葉であろう。「3号館」は、ある特有の意味を持った国立音大用語かもしれない。

4年生はあと半年もしないうちに卒業し、社会に出て、それぞれの業界に入っていく。最初は些細な業界用語の意味がわからず戸惑うものの、半年もすれば自らそれらを使いこなし、仕事をスムーズにこなしているはずである。どのような業界用語がみなさんを待っているのだろうか。もし『そっと教える隣の業界用語辞典』という本が出版されたら、私のような物好きな人たちにきっと売れるに違いないと思うのだが。

## 雑誌の部屋 17

「雑誌の部屋」は、当館が所蔵しているたくさんの雑誌を、もっとみなさんに手にとっていただけるよう紹介するコーナーです。今号と来号でスタディールームの教職・学芸員コーナーに配架されている雑誌をご紹介します。今号は教育・教職関連の雑誌の紹介です。このコーナーには教育・教職に関連する本と一緒に、同じ分野の雑誌最新号当該年度分と前年度分が配架されています。どうぞご利用ください。

### 教育関連

教育音楽 小学版/中学・高校版 月刊

●P0625/P0626…音楽の先生が活躍するあらゆる場面を支援する音楽教育専門誌。指導に役立つ付録楽譜・付録CD付。

音楽鑑賞教育 季刊

●P0746…授業を展開するための考え方やポイントを分かりやすく提案する音楽教育情報誌。

教育 月刊

●P0963…教育の現場で起こっている現実を見すえながら、子どもの未来と教育のあり方を考え、実践・研究する教育科学研究会の機関誌。

特別支援教育研究 月刊

●P1021…特別に支援の必要な幼児たちへのよりよい教育を推進するため、実践的な研究の向上を図る全日本特別支援教育研究連盟の機関誌。

### 教職関連

総合教育技術 月刊

●P1009…常に学校現場の立場に立ち、あるべき学校教育とは何かを多様な視点から考える教育総合誌。

教職課程 月刊

●P1102…教員採用試験合格のために必要なことがわかる教員志望者のための情報・教養誌。

教員養成セミナー 月刊

●P5586…教員採用試験を受験する人のための総合情報誌。雑誌の発行に合わせて教職教養と一般教養の講義を無料で配信中。



# 私のおすすめ

## 枕のような

音楽研究科作曲専攻（ソルフェージュ）1年 根本晃帆

図書

枕のような本がある(註1)。そこには、800ページ以上に渡りオーケストラ作品の詳細(編成、演奏時間、出版社の種類など)がつつらと記されている。1日中眺めていてもちっとも飽きないこの本は、とある仕事における必需本である。私は『ぱるらんど』(註2)がきっかけで、そのことを知った。

学部1年の後期、『ぱるらんど』が私に素敵な職業を教えてくれた。『The Music Performance Library』という本が掲載されていたのだ。「ミュージック・パフォーマンス・ライブラリー」、アメリカで広く使われるこの名称は、日本では「オーケストラ・ライブラリアン」などと呼ばれている。文字からして、何をしている人か分かるような、分からないような。ピアノ以外の楽器に疎かった私は、この時初めてオーケストラには楽譜を管理する人がいることを知った。指揮者の相棒としてエディション選別に苦悩しながら、世界中の同業者たちと情報を共有し、演奏会を作り上げる姿に胸が躍った。「こんなにわくわくする仕事があるんだ!」と大学生にしては幼稚な感想を抱いた私は、いつかライブラリアンになれたら面白そうだな、とふんわり考えていた。

ねもと あきほ ● 私のライブラリアンデビューは、ビゼーのオペラ《カルメン》でした。奏者やスタッフたちと刺激的な時間を過ごしました。

「いつか」は、今年やってきた。

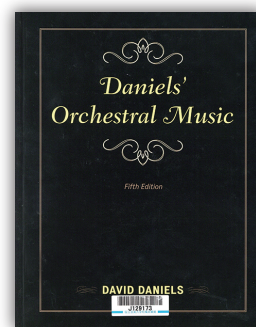
OMF(Seiji Ozawa Matsumoto Festival)及び小澤征爾音楽塾がアシスタント・ライブラリアンを募集しており、私のライブラリアン人生が始まった。楽譜がそこら中に収められているライブラリー室は、パート譜の製本、譜めくりの調整、弦パートのボーイング書きなど、初めて行う作業に溢れた空間だった。自分が準備した楽譜によって音が鳴らされた瞬間、言葉では表現できない感情が湧き上がった。

19歳の私があの日、図書館で呑気に夢みていたことが実現するとは、今でも嬉しさに頬が緩む。ダニエルの本をお供に、今日もライブラリアン修行が私を待っている。

註:

- 1.『Daniels' orchestral music』  
David Daniels Rowman & Littlefield c2015
2. 2013年11月発行『ぱるらんど281号』のこと。

請求記号●X-078b/D



## 和楽器による『ボレロ』

図書館員 岡本さやか

CD

学生とき、ソルフェージュの授業でラヴェル作曲『ボレロ』の分析をしたときのことでした。先生が「こういう『ボレロ』もある」とおっしゃって流し始めた『ボレロ』。一瞬普通の『ボレロ』と変わりないように思えるのですが、よく聴くと響きが違うのです。フルートではなく篠笛がメロディを奏でるなど、和楽器の演奏による『ボレロ』だったのです。

異動で図書館に来てから、ふとその『ボレロ』のことを思い出したのですが、授業で聴いたときは音源のタイトルも編曲者も演奏者も聞いていなかったの、ヒントのない状態でした。OPACでキーワードを変えながら検索し、最後は地道に詳細画面を確認しながら、このCDを見つけました。

授業で聴いたものと同じかどうかは今となってはわかりませんが、こちらは池辺晋一郎の編曲によるもの。『ボレロ』は2種類のメロディが繰り返されるけれど楽器の組み合わせはすべて異なるというのはご存知のとおりですが、解説によると「楽器の種類と数がオーケストラに比べ少ないので、やむを得ぬ原曲のカットを最小限ほどこした」とのこと。でも楽器の組み合わせの違いや倍音

の表現などもちゃんと反映されています。伝統的な和楽器が思いがけない効果を生んでいたりと、十七絃や二十絃箏といった比較的新しい楽器も取り入れられていたり、『ボレロ』なんだけど和の響きというのがなんともカッコイイのです。一味違う『ボレロ』をぜひ聴いてみてください。他の収録曲も近代フランスの名曲が並んでいて、私のように普段邦楽はあまり聴く機会がない・詳しくないという人にも親しみやすいのではないのでしょうか。

気になるけれど詳細がわからないという資料も諦めずに探してみると、きっと新たな出会いがあると思います。図書館員もお手伝いしますので、遠慮なく聞いて、どんどん探してみてください(図書館員としてはヒントは多い方が助かります)。そして某先生、このCDじゃなかったらごめんなさい。

『ボレロ・ジャパネスク / 日本音楽集団』  
King 1987

請求記号●XD3692

\*現在は廃盤



おかもと さやか ● ボレロを聴くとき、音量を冒頭と最後どちらに合わせるか悩みませんか?前半大きくしすぎて最後の方で慌てて下げる派です…。

### 夏休み前に借りた資料の返却

7月以降に借りた資料は、もう返しましたか？返却期限は9月2日（土）です。忘れずに早めに返却しましょう。

### 資料の返却前に確認を

「パート譜が不足」「CDや解説書が入っていなかった」など返却時のトラブルがしばしば見られます。これらの場合、返却処理ができませんので、返却前には今一度資料が揃っているか確認をお願いいたします。また、借りた際に資料の状態に不自然な点がありましたら、カウンターまでお知らせください。

### 資料の水濡れに注意

返却された本や楽譜、CDケースが水で濡れていることがあります。資料を傷めますので、雨の日はビニール袋に入れる、ペットボトルと一緒に入れ物で持ち運ばないなど、資料が濡れない扱いをお願いいたします。

### TAC便の夏休み明け開始は

9月1日（金）から開始しています。当館で所蔵していない資料でもTAC加盟館にある場合、TAC便を利用すれば当館資料と同じように利用できます。申込はメインカウンターで。

### 長時間の離席、ご注意ください！

盗難に会う危険がありますので、長時間席を立つ時は荷物を持ってください。また、荷物を置いての席取りはご遠慮ください。

### 購入希望の受付が始まります

後期の購入希望受付が9/7（木）から再開します。図書館2Fメインカウンターでお申込みください。

### 5分間ガイダンス

休み時間を利用して5分間でワンポイントレッスンを体験する事ができます。1人から体験可能なので個人でもグループでもOKです。お申込みは図書館2Fメインカウンターまで。

## 図書館活動報告

### <展示・企画棚>

#### 『竹内道敬文庫錦絵図録目録』 近日刊行！記念展示

本学図書館の貴重コレクションの一つ、『竹内道敬文庫錦絵図録目録』の近日中の刊行を記念して、錦絵の展示を行っています！竹内道敬元本学教授は、長く「近世日本音楽」についての授業を担当されていました。竹内文庫には、先生の研究の柱である三味線音楽を中心に、関連のある様々な資料が収められています。

#### 劇場図編 5月29日（月）～6月30日（金）

コレクションの中から明治時代に落成した劇場を題材とした錦絵を展示しました。

#### 祭礼編 7月3日（月）～8月31日（木）

「祭り」の存在は特別なもので、江戸の庶民にとって心躍る特別なものだったようです。今回は神田祭を題材とした錦絵を展示しました。

### <大学イベント対応@図書館>

#### 7月23日（日） ピアノフェスティバル

館内に作曲家の自筆譜展示や絵本・教則本コーナー、視聴スペースを設け、フェスティバルに参加された方にお楽しみいただきました。図書館ツアーでは普段は入れない楽譜の書庫をご案内しました。

#### 8月1日（火）～8月4日（金） 夏期受験準備講習会

図書館2階ライブラリーホールに受験生のための情報コーナーを設置しました。楽譜展示や視聴スペースを設け、受験生や保護者の方の見学にも対応しました。

### <出張展示>

図書館では、大学イベントに合わせて会場で資料を展示する「出張展示」を行っています！

#### 5月21日（日）

親子で楽しめる国立音楽大学ファミリー・コンサート2017@講堂2階ホール

#### 6月3日（土）、4日（日）

中学・高校生のための国立音楽大学オーケストラワークショップ@新一号館オーケストラスタジオ、合唱スタジオ

#### 7月2日（日）

エデュケーションプログラム@講堂大ホール

#### 7月31日（月）

第11回夏休み特別企画子ども見学会@楽器学資料館ロビー

### <ガイダンス>

#### 6月23日（金）、30日（金）

早稲田みな子先生クラスガイダンス  
（原書講読・英語 3年）

#### 6月28日（水） 阪上正巳先生ゼミガイダンス

（専門ゼミIII・IV 音楽療法 4年）

#### 7月3日（月） 清水あずみ先生ゼミガイダンス

（専門ゼミIII リトミック 4年）

■ 表紙：中田隼斗 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科2年 ■ 国立音楽大学附属図書館

■ 発行：国立音楽大学附属図書館

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp>

■ 編集担当：高橋京子・宮部真砂子

E-mail [info\\_lib@kunitachi.ac.jp](mailto:info_lib@kunitachi.ac.jp)